

国際文化学部懇談会、新入生への挨拶

国際文化学部長 岩野雅子

国際文化学科のみなさん、文化創造学科のみなさん、国際文化学部へのご入学おめでとうございます。人生80年と言われる今日、みなさんが今まで歩いてきた道は、まだその1/4にしか過ぎません。ここまでの道のりを振り返ると、赤ちゃんのときの輝くような日々、保育園や幼稚園、小学校などでの煌くような年月、そして、中学高校あるいは予備校などでの大きな成長の時間が、みなさんの「子ども時代」の大切な思い出として心の中に刻まれていることと思います。

さて、これからこの大学、学部、学科で始まる4年間は、成人式を経て「大人としての人生」へと、そして就職活動を経て「社会人としての人生」へとつなげていくことになります。4年後にみなさんが手にする結果、すなわち、社会のどこに出て行くかは、「今」「ここ」から始まり、「この場所」でつくっていく原因によって導かれるものとなります。

本日、大学への入学式という儀式を経て、みなさんの胸の内には新たな始まりに向けた決意が宿っていることと思います。しかし、せっかく決めた目標も、いわゆる三日坊主に終わらせる人がたくさんいます。最近では21日の壁といい、3週間目以上、目的意識を持続させるのが難しいとも言われています。大学の日常は、単調な毎日の繰り返しでもあります。そのような中で、何かに「トキメキ、ヒラメキ、キラメキ」く機会をもってほしいという思いで、私たち教員はさまざまなしかけを用意しています。それらを面倒くさいと思って避けたり逃げたりするのか、あるいは、しかけにのってきえてくれるのか、その一つ一つが最終ゴールへの分かれ目になります。



「若い時の苦労は買ってでもせよ」と言います。できるだけ重い荷物を担いでみる。そして、失敗から学ぶこと。親や教師に叱られたくないとか、今まで叱られたことがないとかいう人が増えていますが、社会に出ると叱られることばかりです。叱られ、失敗し、そこから学ぶ。キャンパスの中で失敗を笑う人はいません。これではどうですか、これならどうでしょうと、次々に改善案をもってやってくるような、チャレンジ精神に溢れた4年間であることを期待します。教科書に書いてあることをそのまま覚えてきて、筆記試験に合格すればよいというような学び方は捨てて、「自分」をしっかりつくっていく4年間とすることを祈っています。

4年後に、みなさんが、自らの特性を強みに変え、それぞれの専門性をもって地域社会へ飛び立ち、たんぼぼの花のようにまわりを明るくしていく人財 (human assets) として就職先あるいは進学先に根付いていくこと、そして、この場所での4年間の思い出があったからこそ、「今、ここにいるんだね」と言えるよう、私たち教員一同応援します。

今日の始まりの時に、4年後の見通しを立てることをお勧めします。今、日本は、そして世界は、アジアの世紀へ、そしてアセアンの時代へと入っています。4年後の就職活動で競争するのは、隣の日本人ではなく、日本にいる、あるいは日本にやって来る外国人でもあります。それらの人たちと競争し、また、友として一緒に楽しく働けるような人づくりをすることが、この国際文化学部の使命の一つです。

今見えていないものが、突然姿を現して人々を驚かせるような時代です。4年後が、今の日常の延長線上にあるとも限りません。時空を超えた知見や、多角的な視野の持ち方、柔軟な行動などについて先生方から大いに学び、子どもから大人へと大きく成長してください。